



® 平成 29 年 3 月 27 日 (月)

No. 14411 1部370円(税込み)

## 発行所

一般財団法人 経済産業調査会

東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)

郵便番号 104-0061

[電話] 03-3535-3052

[FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4

(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

## 特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円  
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び  
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

## 目次

☆地域における観光と知的財産の関連性 (22) … (1)

☆知的財産関連ニュース報道(韓国版) …… (8)

☆フラッシュ(特許庁人事異動) …… (11)

☆[随筆] ダイナブックとザウルス …… (12)

# 地域における観光と知的財産の関連性 (22)

東京理科大学専門職大学院(MIP)

教授 生越 由美

## 第5章 地域における事例

### 19. 島根県木次町(現:雲南市)(特許権)

日本で初めて「パスチャライズ牛乳」の製造に成功した島根県雲南市の「木次(きすき)牛乳」を取り上げる。詳細は後述するが、パスチャライズ牛乳とは「低温殺菌牛乳」のことである。

欧米では、カルシウムを最も効率よく摂取できるパスチャライズ牛乳(低温殺菌牛乳)を飲むことが

多い。先進国の中で日本のように「超高温殺菌牛乳(120° 2秒殺菌)」が市場のほとんどを占めている国は他に例をみない<sup>1</sup>。なぜ、日本ではカルシウム摂取が効率的にできるパスチャライズ牛乳の流通・販売が少ないのか。いろいろな要因はあるが、高度で手間の掛かる製造技術が必要だからである。

この手間の掛かる技術に取り組み、信頼のブランドを構築したのが「木次牛乳」である。パッケージ



鈴 榮 特 許 綜 合 事 務 所  
SUZUYE & SUZUYE

〒105-0014 東京都港区芝3丁目23番1号 セレスティン芝三井ビルディング11階  
電 話 東京03(6722)0800(大代表) URL <http://www.s-sogo.jp/>

所 長 ○弁理士 蔵田 昌俊(電気・通信)  
副所長 ※弁理士 野河 信久(電子・通信)  
主 監 弁理士 井上 正(電子・情報・通信)  
理 事 弁理士 飯野 茂(物理・計測・分析)  
常務顧問 弁理士 吉田 親司(意匠・不正競争)  
△※弁理士 岡田 貴志(電子・ニューヨーク州弁護士)  
弁理士 永島 建治(機械)  
※弁理士 角田さやか(機械)  
※弁理士 清水千恵子(海外商標)  
※弁理士 矢野ひろみ(海外商標)  
※弁理士 馬淵 繁(電気・通信・情報処理)  
弁理士 土田 新(機械・バイオ)

所長代行 ※弁理士 小出 俊貴(商標意匠・不正競争)  
□弁護士 金子 博人(知的財産法務)  
理 事 弁理士 井関 守三(電子・通信)  
理 事 弁理士 森川 元嗣(機械)  
※弁理士 佐藤 立志(電子・通信・ソフトウェア)  
弁理士 堀内美保子(化学・バイオ)  
※弁理士 宮田 良子(電気・電子)  
※弁理士 朝倉 傑(電子・通信)  
※弁理士 石川 真一(機械・バイオ)  
弁理士 片岡 耕作(機械・制御)  
弁理士 飯田 浩司(機械・電気・バイオ・医療機器)  
弁理士 辻本 典子(バイオ)

所長代行 弁理士 福原 淑弘(電気・電子・通信)  
主 監 弁理士 河野 直樹(化学)  
理 事 弁理士 鶴岡 健(生命工学)  
常務顧問 ※弁理士 峰 隆司(電気・電子・通信)  
※弁理士 幡 茂良(商標意匠・不正競争)  
※弁理士 金子 早苗(化学)  
弁理士 堂前 俊介(電気・電子)  
※弁理士 橋本 良樹(商標意匠・不正競争)  
弁理士 中島 千尋(機械・制御)  
弁理士 柴田紗知子(物理)  
弁理士 中丸 慶洋(電子・情報処理)

○米国パテントエージェンツ(合格) ※付記弁理士(特定侵害訴訟代理) △ニューヨーク州弁護士 □顧問弁護士

【顧問法律事務所】弁護士法人 内田・鮫島法律事務所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目10番1号 虎ノ門ツインビルディング東棟16階 電話(03)5561-8550(代表) FAX(03)5561-8558 URL <http://www.uslf.jp/>

を見れば、白地に黄色と赤字の独特のデザインであるため、スーパーマーケットなどで見かけたことがある方も多いと思う (写真1)。全国に愛飲者がいる。木次牛乳の社名の由来は「木次町 (きすきちょう)」なる町名である。

写真1：木次乳業の製品<sup>2</sup>

もう一つの駅の「日登駅」の愛称は「素戔鳴尊 (すさのおのみこと)」。神話の国の出雲らしい話である。

図1：雲南市

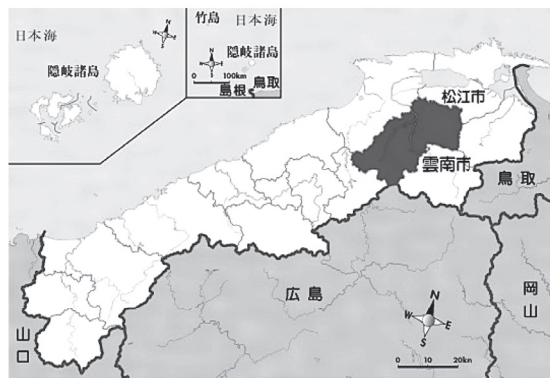


図2：木次町 (現:雲南市)



#### (1) 木次町 (現：雲南市)

雲南市に合併前の「大原郡木次町」のときは、人口9890人、面積64.07km<sup>2</sup>だった。2004年11月1日に、大原郡大東町、加茂町、飯石郡三刀屋町、吉田村、掛合町と合併して「雲南市」となった (図1)。合併後の人口は約4万6000人である。

木次町は「ヤマタノオロチ伝説」の舞台となった由緒ある地で、斐伊川が流れている (図2)。この川の堤防の桜並木は「日本さくら名所100選」に選ばれるほどの見事さである。

木次町には、西日本旅客鉄道 (JR西日本) 木次線の「木次駅」と「日登 (ひのぼり) 駅」がある。「木次駅」の愛称は「八岐大蛇 (やまたのおろち)」で、毎春にトロッコ列車「奥出雲おろち号」の出発式が行われる。

#### (2) 牛乳の歴史<sup>3,4</sup>

紀元前6500年頃、牛はトルコ辺りの中東で家畜化されたと推定されている。その後、西アジアの広大な草原で乳製品を摂取する文化が誕生した。

御存じの通り、紀元前5世紀初頭の頃、仏教は釈迦がインドで始めた宗教だが、その釈迦が生涯にわたり「牛乳の神髄」を求めたという話がある。

「釈迦がまだ太子であったころ、奥山で一週間に1食しかとらない絶食の厳しい修行に励んだそうです。悟りをひらいて衰弱しきった体で下山し